

第4回 議会改革協議会 会議録

日時：令和8年6月11日（木）15:00～15:20

場所：第6委員会室

■出席構成員

会派	構成員	
自民党・無所属の会	田中 元 議員（座長）	菊地 公平 議員
公明党	木畑 広宣 議員	金子 秀一 議員
市民とともに北九州	大久保 無我 議員	小宮 けい子議員 （泉 日出夫 議員代理）
日本共産党	山内 涼成 議員	永井 佑 議員
北九州会	奥村 直樹 議員	小宮 良彦 議員

■議題

- 1 第3回議会改革協議会会議録について
 - 2 決算特別委員会における議論を翌年度の予算に反映させる仕組みについて
 - 3 政務活動費の用途基準の運用マニュアルの整備について
 - 4 令和8年度市議会政策立案支援事業に係る講演会の開催について
 - 5 その他
-

■議事要旨

1 第3回議会改革協議会会議録について

【事務局】

○資料1により説明

2 決算特別委員会における議論を翌年度の予算に反映させる仕組みについて

【事務局】

○資料2により説明

【自民党・無所属の会】

○仕組みについて、案のとおりでいい。

○項目数の目安について、まずは各分科会の正副主査が1から3項目ずつ抽出すればいい。

【日本共産党】

- 仕組みについて、問題ない。
- 議会として提言書を提出するのであれば、重みを持たせる必要がある。そういう意味で、項目数の目安として、ゼロもあり得ると考える。

【北九州会】

- 仕組みは、これでいい。
- 項目は各分科会から出すことになると思う。
- 項目数について、ゼロも考えられることを考えれば、徒労に終わらないように、早い段階で正副委員長と各分科会の正副主査が調整して、全体のバランスを見たらいいと思う。

【市民とともに北九州】

- 仕組み全体について、概ね賛成である。
- ただ、提言書の提出が目的にならないようにしないといけない。そのため、項目数は、数合わせにならないようにするべきである。
- 項目などについては、次の決算特別委員会の役職者で、しっかり検討していただいたらいいと思う。

【公明党】

- 仕組みは、この案でいい。
- 項目を抽出する際の視点として、市民生活や企業活動に直接大きな影響を与える等、翌年度予算で特に対応が必要なもの、という視点を決算特別委員会の役職者が認識して抽出することが大事であると思う。

【北九州会】

- 各会派それぞれ会派要望を執行部に提出していると思う。会派要望は、各会派の視点で要望を出しているものであり、この提言書は、会派を超えて一致したものを提言するものであり、それだけでも重みがある。

【公明党】

- 提言書の提出について、決算特別委員会の役職者が中心となって提言書案を作成するため、提出の際は、正副議長とともに、決算特別委員会の正副委員長が提出することにしてもいいのではないかと考える。

【日本共産党】

○仕組みについて、賛成である。

○次の決算特別委員会の役職者に、本日、議論があったことを是非伝えていただき、次の9月議会からスタートできるように仕組み化していただきたい。

【座長】

○決算特別委員会における議論を翌年度予算に反映させる仕組みについて、案のとおり決定する。

○なお、本日いただいた意見は、令和7年度決算特別委員会の役職者に伝える。

3 政務活動費の使途基準の運用マニュアルの整備について

【事務局】

○資料3により説明

【座長】

○見直しの検討を行うこととなった項目について、各会派において検討をお願いする。

4 令和8年度市議会政策立案支援事業に係る講演会の開催について

【事務局】

○資料4により説明

【自民党・無所属の会】

○講演内容について、詳しく説明していただきたい。

【事務局】

○議員は、住民の皆様から様々な要望を受けられている。その要望が多様化、複雑化している。それらを解決するため、条例立案の意義や基本的な考え方など、条例制定による問題解決の手法を含めて、住民ニーズにどのように対応していったらいいのかという内容で、政策立案能力の向上に資することができる講演会にしたいと考えている。

【座長】

○提案のとおり、政策立案支援事業の活用について、本協議会から議長宛に要請する。

5 その他

【座長】

○第5回協議会について、開催日程は決まり次第、連絡する。